

「いいたて学」 今年度の学びの発表

「村の魅力を多くの人に知ってほしい」「村のために自分達にできることを考えたい」といった言葉から熱い思いが伝わる、まさしく「村を興さん、村を富まさん」という発表でした。

5年生の発表



「飯館村の農業」あぶくまもちを使った甘酒のラベル作りを通して

5年生は、「震災を乗り越えた飯館村の農業」について学びを深め、「あぶくまもち」をテーマに活動しました。活動を展開する中で、いいたて村の道の駅までい館を取材し、駅長へのインタビューをきっかけに「あぶくまもちの甘酒」のラベルづくりに挑戦することになりました。「どうすればいろいろな人が買ってくれるか」「興味をもってくれるか」を話し合い、ラベルのデザインを考えました。ラベルを付けた商品が2月に発売されたことへの達成感や喜びを話し、「私達の行動が社会の役に立つことにわくわくしました」と発表を締めくくりました。

6年生の発表



「復興に向けて自分たちにできること」

6年生は、飯館村の震災と復興の歩みを学ぶ中で長泥地区のことを知り、「どんな場所なのか自分達の目で確かめ、向き合いたい」と現地を訪れました。長泥地区では実際に空間線量を測定したり、「ながどろひろば」を訪れ長泥の花でしおりを作ったりもしました。また、地区の方へのインタビューで「長泥をもう一度花の里にしたい」という言葉を聞いたり、長泥に関わる人々のエピソードに触れたりして、「そこに住む人、働く人、関わる人の思いが重なり一歩ずつ前に進むことが本当の復興」と考えるようになりました。「長泥は”大変な場所”なのではなく、困難に向き合いながら一方で新しい魅力が生まれている”希望の場所”であることを伝えたい」とポスターを制作しました。「いろいろな場所にこのポスターを掲示し、長泥地区、飯館村の魅力を多くの人に伝えたい」と語りました。

こども議会

5・6年生が議会で質問

よく調べ、よく考え、さまざまな角度から質問や提案を行った児童の皆さん、貴重なご意見を、ありがとうございました。

2月18日、役場庁舎内の議場で「こども議会」が開かれ、いいたて希望の里学園の5・6年生12人が、「こども議会議員」として一般質問を行い、4年生が傍聴しました。通常の議会と同じように、村長、副村長、教育長、各課長が出席し、議員の質問に対して答弁しました。子ども達が村を思い、よりよい村づくりのために考えた質問や提案を、抜粋して紹介します。また、続けて行われた「いいたて学」の学びの発表についても、その充実した内容をお伝えします。

クマやイノシシ、サルなどの野生動物が増えていると聞いています。子どもや村の人が安全に過ごす方法を知ることが大切だと思いますが、役場ではどのような取り組みをしていますか。



これからも飯館村で農業を続けていくために、どのような取り組みをしていますか。

お年寄りや一人で暮らしている人が村には多いと思います。そのような方々をどのように見守り、どのように助けていきますか。



「こども議会」でお伝えした意見は、どのように村に生かされますか。また、子どもの意見をこれからも聞いてもらえる場を設けてほしいです。

美術館や博物館のような場所があれば、いろいろなことを見て学べると思います。また、文化祭の展示のように、作品や大切にしているものを展示し、村の人が活躍できる場をつくるのはどうでしょうか。



お金は大切に使わないといけないと思いますが、村のお金を扱うとき、一番大切にしていることは何ですか。

いいたて希望の里学園は、少人数の学校です。少人数の学校だからこそ、大切にしていることはありますか。



飯館村の自然や土地は、大きな魅力の一つだと思います。その自然を生かして、アスレチックなど体を動かせる施設をつくるのはどうでしょうか。

災害やいざというときのことを考えて、子どもと大人と一緒に学べる機会や避難訓練などを企画するのはどうですか。



役場では、大切な会議や話し合いが多いと思います。その中で、子どもや若い人の意見はどのように生かされていますか。

子どもと大人と一緒に活動できる、ボランティアチームのような組織を作るのはどうですか。



イタネちゃんを広報や配信、イベントなどで、もっと活用していく考えはありますか。

